

③7月に1回開催し、経営環境について話し合うとともに、今後のスケジュールを協議した。

地域医療の確保の観点から、県の財政・医療などの関係者の助言を求めたい。

恵下谷バイパスの促進について

松浦 良一 議員

問：昨年6月の定例会において、主要県道三原東城線恵下谷バイパスの計画について質問したが、今後このバイパス整備計画をどのように促進し、いつ工事着手に向かうのか。所見を問う。

答：昨年8月に、県から延長約6kmに及ぶ概略のルート案と北側の約1.2kmのバイパス部分から事業化に向けて測量などの調査に着手することが示された。

これを受けて、昨年度に路線測量・ボーリングなどの地質調査及びトンネル部分を除いた道路詳細設計が実施された。

本年度は、残りのトンネル部の詳細設計を実施中とのことである。本市としても、事業の早期着工と一日も早い完成に向け、引き続き国・県に要望活動をする。

三河ダムの事業推進について

松浦 良一 議員

問：①昨年12月定例会での答弁では、「地元推進体制の構築が必要」とのことであったが、その後



▲事業が進む三河ダム

地元協議はされたのか。

②第2期分の管水路工事の見通しはどうか。

③地元受益関係者に対する事業説明はいつ頃されるのか。

④末端部分の配管工事は、今後どのように考えているのか。

答：①今年9月下旬を目途に地元協議に入る予定。

②今年度測量設計を行い、延長などを明確にした後、来年度から工事着手する予定。

第2期分全体の工事完成は、平成21年度をめざしている。

③県営事業で施工される幹線パイプラインとの整合を図りながら、平成20年度から調査設計を行い、平成21年度から順次着手する予定。

④早期に農業用水の安定供給を実現し、地域農業の振興に資するよう努める。

三原運動公園の更なる整備を

岡本 純祥 議員

問：今年3月に完成した多目的広場のすべり台は、雨が降ると着地する所が水溜りとなるので早急な対策を。また芝生部分に雑草が生え、このまま放置すればせっかくの芝生がだめになるのではないか。

石灰のラインを使用しているが、芝生を傷めるのでは。今後の管理をどうするのか。

照明設備があれば、サッカーなど市民にとって市内唯一の芝生グラウンドを、夜間も使用できると思うがどうか。

答：滑り台の下の水溜りの処理については、早急に改善策を取る。

芝の刈り取りは、年5回刈り取るよう計画をして、現在2回実施しており、今後状況を見ながら行っていく。

ラインに石灰を使用しているが、今後適切な管理をしていく。

照明灯の設置については、新しい施設であるので、しばらく利用状況・利用者ニーズを見極めて、必要か否かも含めて検討をしていく。



▲多目的広場の遊具

放課後児童育成事業について

岡本 純祥 議員

問：文部科学省が示した「放課後子どもプラン」によると、全国2万か所全ての小学校で、全児童を対象にコーディネーターを配置し、安全管理員・退職教員や

教員志望の学生などにより、学習・スポーツ・文化活動などを行い、放課後の学校での居場所の確保を図るとされている。

この「放課後子どもプラン」をどのように考え、どう進めていくのか。

答：国で検討されている新たな制度「放課後子どもプラン」は、基本的な方向が固まったのみで、今後、予算や推進体制が検討されることになっている。

今後の対応として、国は当面公民館などについても活用を認めているので、コミュニティセンターなどへの開設も視野に入れ、「放課後児童クラブ」の所管課である子育て支援課と協議をし、事業内容が明確になった時点で、開設可能な学校から対応をしていきたい。

子どもの安全プロジェクト事業は

陶 範昭 議員

問：①子どもの安全な環境づくりについて、市職員の巡回パトロールをしているが、沼北地区防犯協会は、地域として初めて青色防犯パトロールをしている。行政と地域が一体となって安心・安全なまちづくりを、進めるべきでは。

②青色防犯パトロールは、車や燃料費など全て自己負担となっているが、支援をするべきでは。

③通学路危険箇所点検は、安心・安全なまちづくり事業として、来年度以降も継続して行なっていくべきでは。

答：①「安心・安全なまちづくり」は、行政と地域が協働して、継続的な活動を展開していくものと考えている。行政職員による青色防犯パトロール活動は、地元での子ども見守り活動の進捗状況を見極めながら、再検討をする。

②人材育成や物品の貸与などを中心とした活動支援をする。

③整備可能な箇所から随時、整備しているが、次年度以降についても継続可能な限り改善していく。

七宝橋の架け替えを

陶 範昭 議員

問：七宝橋は幅員4mで狭く、小型車両の離合にすれすれで、朝夕の通勤時には特に交通量が多く、橋いっぱい渋滞している。第五中学校の生徒は、すれすれの車の横を危険を感じながら通学している。

雨の日には川の水量が増し流れも速く、橋の耐久・安全性に不安を感じる。橋の幅員の狭さを改善し、人も車も安全に通行できるよう橋の架け替えが必要と思われるがどう考えているか。

答：七宝橋は、昭和41年に橋長130m、幅員4mで整備された橋梁であり、国道2号と沼田東町方面を連絡し、通勤通学など市民生活にとって欠かせない役割を果たしている。

しかし幅員4mで整備されているため、車両の離合が難しく、歩行者や自転車通学の生徒の通行にも支障をきたしており、整備されてから既に40



▲架け替えが待たれる七宝橋（沼田東町）

年が経過しているため、将来的には架け替えを含めた整備を検討していく必要があると考えている。

学校施設の地域開放への考え方は

川口 裕司 議員

問：国でまとめた「学校施設整備指針」にあるように施設の地域開放・連携の重要性があげられ、積極的対応が求められている。市の学校施設地域開放について、今後の在り方・基本的考えを伺いたい。

大和町においては、学校プールの地域開放日が減じられる計画と聞くが、逆行するもので理解できない。

合併前の設置経緯・歴史も考え減すべきではなく、配慮した対応が必要であり所見を問う。

答：学校施設の地域開放は、学校教育に支障のない範囲で管理指導員を配置し、体育館・運動場について開放している。今後も、教育委員会が許可権限など所管して推進していく。

学校プール開放は、合併協議において「旧市の例に統一する」とされており、開放日数を

順次減ずるものではなく、学校・保護者のボランティアによる管理のもと開放していく。

大和地域のケースは、設置経緯などを踏まえ、協議・検討する。

道路維持は現況に対応しているか

川口 裕司 議員

問：主要市道、国・県道の管理にかかり、道路際にはみ出す雑草木が目につく。大型トラックなどの通行の際、大変危険に感じている。

走行の安全確保、歩行者を含む周辺住民の安全確保責任は、その管理者たる市・県などにあると考えるが所見を問う。

パトロール強化により現況をどうとらえているか伺いたい。

また支所裁量予算を増額し、迅速な対応を検討すべきと考えますがどうか。

答：道路の維持・補修は重要な道路管理者の責務と認識している。

雑木除去は基本的には法面所有者で伐採し、できないときは所有者の了解を得て市で処理し、安全通行を確保している。

予算配分について、各支所の



▲道路にはみ出して生い茂る雑草

不足は全体予算のなかで対応しており、今回もパトロール対応により事業費増が見込まれ、補正をお願いしている。

地域要望に沿い支所と連携し、優先順位を考慮しながら効率・効果的に事業実施して行く。

庁舎建て替えに市民の賛否を

寺田 元子 議員

問：事業費58億円で計画されている市役所庁舎の建て替え計画は、市民に知らされないまま、今年度中には予定地を決定しようとしている。建て替え理由に挙げられている手狭な現状・駐車場不足・耐震強度の問題は、いずれも改善策があり、建て替えの理由にはならず、市民の賛同を得られる事業ではない。市の借金は今後一層増える傾向だが、市庁舎建て替えに関する全ての情報を市民に示し、賛否を問うべきではないか。

答：現在、市役所の本庁機能は、本庁舎と城町庁舎・円一庁舎に分かれ、窓口の分散・相談スペースの不足・駐車場不足などにより、市民に不便をかけている現状にある。また庁内の連絡や意思の疎通を図る上でも非効率的であり、不便を感じている。

こうした状況を解消し、機能的な行政サービスや災害時に防災拠点の役割を果たすため、庁舎の全面改築を前提に、議会の調査委員会・行政内の検討会議・市民公募委員を含む検討会で、今後十分に論議を深めたい。



▲現在の市役所本庁舎

芸術文化センターは財団で運営すべき

寺田 元子 議員

問：芸術文化センターが来年の秋には完成するが、本市は企画から管理まで全てを指定管理者に丸投げする考えだ。

他市のホールは自治体出費の文化振興財団が指定を受け、運営している。平山郁夫氏など著名な文化人も、「芸術文化は市場原理になじまない」との指摘をしている。

本市も文化財団を創設し、完成する芸術文化センターを拠点にして、文化・芸術を育んでいくべきではないか。

答：芸術文化センターは、平成19年10月の開館予定に向け、順調に建設が進んでいる。

その管理運営について、施設の魅力を最大限に引き出し、住民の満足が得られるサービスの提供には、民間業者の持つ創意工夫が必要であり、指定管理者の導入が最適と判断した。

財団などの公益法人については、全国的に見直しが求められており、行政のスリム化を図る時代の要請にそぐわないと考えている。